

薦季直表 鍾繇



先帝神略奇計、委任得人、深山窮谷、

(芸術新聞社)

※昇試随意部参考(半紙・条幅)としてもご利用下さい。抜粋可。

## 一字書(三月二十二日締切)

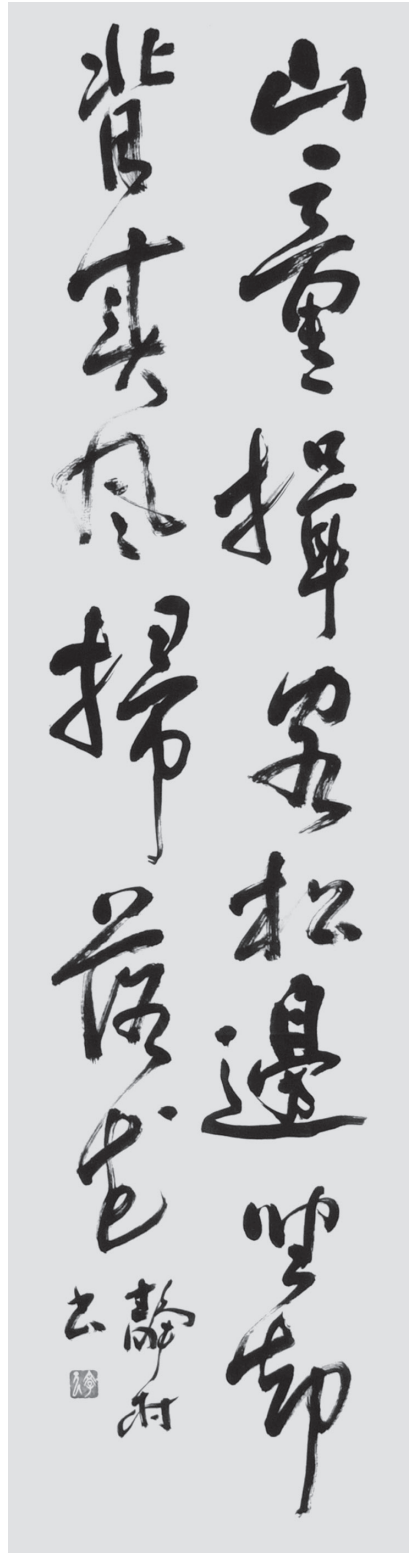
課題

# 善

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

A  
鈴木静村先生書

山童揖客松邊坐 却背春風掃落花 (黄鎮成)  
山童客の松辺に坐するに揖し、却って春風を背にして落花を掃う。



B

高橋 香樹会长書

右行八字詰め、行末の「却」の末画は全体としても中心画。私は体験上、末画のタテ画は作品面での主要ポイントとして、その効果を狙っている。特に行末の場合はより注目的。なお「揖、掃」の末画も萎縮することなく暢びと味を有たせたい。邊 書き方多様、字典で確かめを。春風 行草に拘りなく自在に。



運筆の注意点としては、遅速・強弱がよくいわれることですが、今回は、この点に意を用いて書いてみました。特に細線は、意識しないと書けないものです。「邊」は、いろいろな形があります。字書にあたって下さい。「坐」も「春」もこの形があります。墨継ぎは「坐」と「掃」。

訳：山家の童子は松林に坐っている客に挨拶し、却って春花に背を向けて落花を掃う。

予告 (四月二十二日締切)

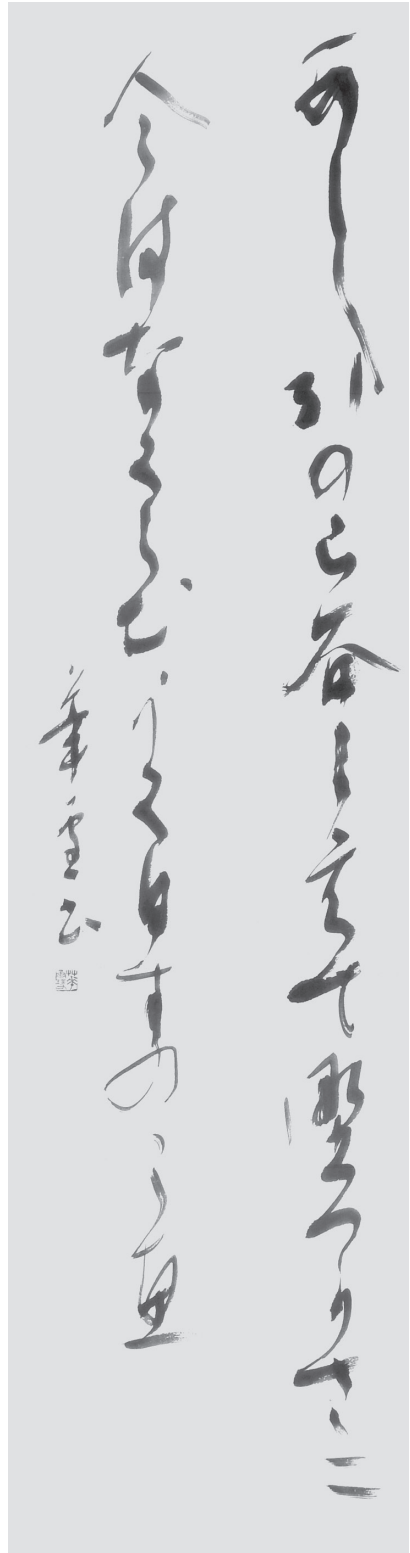
梨花酒熟江城晚

杏子衫輕水寺深 (廣鴨)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

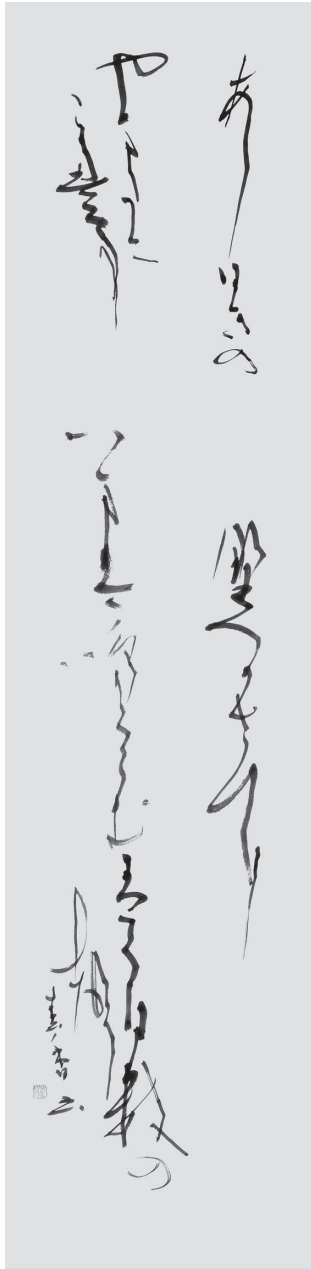
A  
平岡華雪先生書

あしひきの山谷こえて野づかさにはなくらむうぐひすのこゑ (万葉集 山部赤人)  
あし引の山谷こえて野つ可さ二今はな久らむう久日すのこ恵



B  
石原春香先生書

あしひきのや万多二こ盈亭野つ可さ耳い万盤鳴くらむ有く日数の聲



山部赤人：奈良時代の歌人。生没年不詳。万葉集に数多く秀歌を残す。柿本人麻呂とともに二大歌聖といわれる。代表作としては、「田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつゝ」がある。

学 び 方

歌意：もう春だからうぐいすなどは山や谷を越え、今は野の上の小高いところで鳴くようにでもなったかと想像して詠んでいる歌。赤人が病床にあった折に詠んだ歌ではないかという説あり。

紙面を二つに分けてみました。上段は「やま谷越えてゆく鶯の動きを」、下段は「うぐひすの聲」を強く表現してみました。

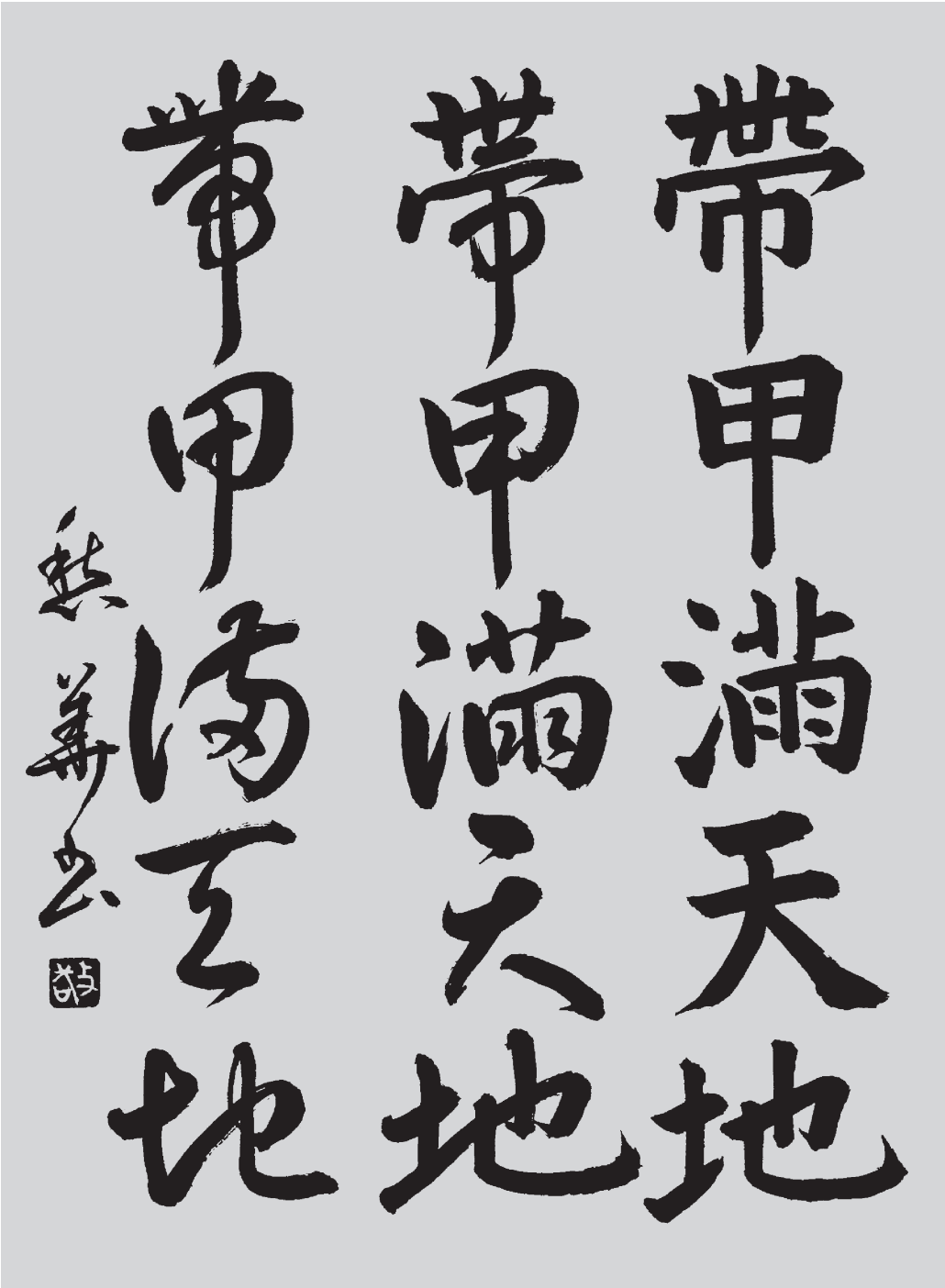
予告 (四月二十二日締切)

やはらかに柳あをめる北上の岸辺目に見ゆ泣けとごとくに (石川啄木)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

石田 愁華 先生 書

帶甲滿天地 (杜甫)  
帶甲 天地に満つるに

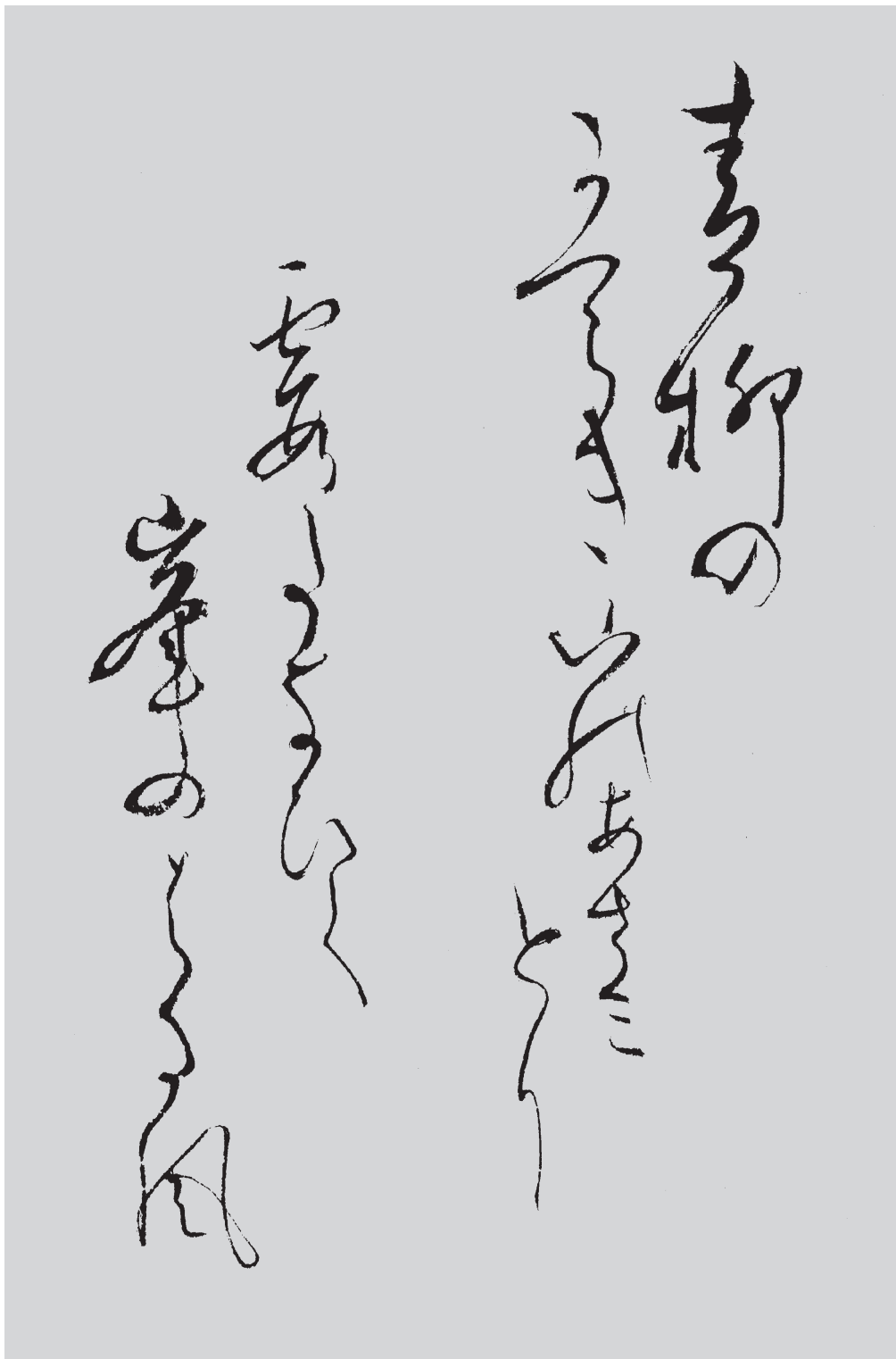


訳：武装した将兵が天地に満ちあふれ、

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

青柳のかつらぎ山のあさみどり霞たなびく峰のはる風(本居宣長)



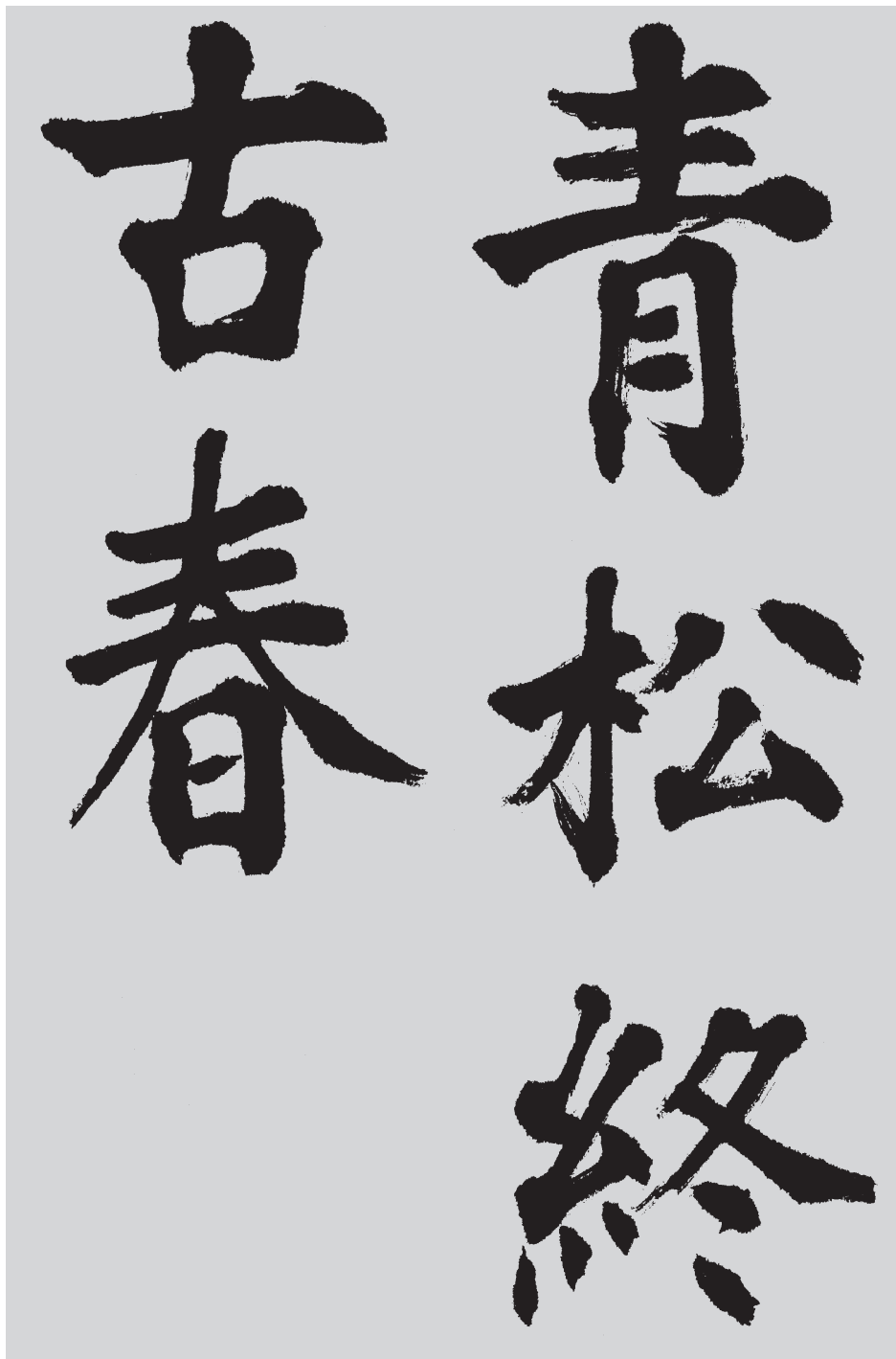
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

青松終古の春(呉楡)

訳：みさおを変えぬ青々たる松は  
永久の春を成している。

「松」と「終」の転折では、図の△  
のところまで鋒先を左横に出し、鋒先を  
上に向けたまま突き筆の弾力を利用して  
横画を。



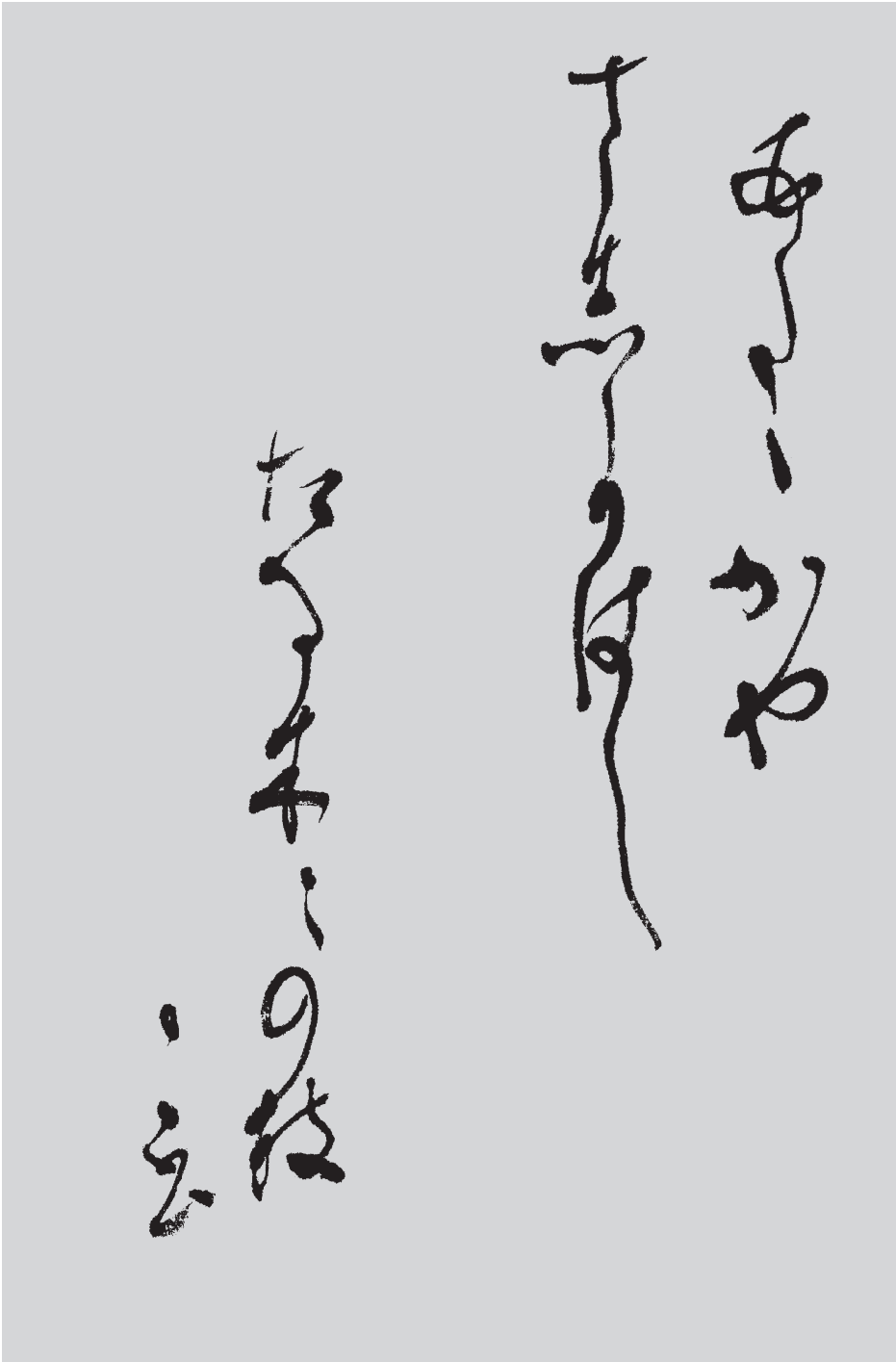
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

あたたかやさしかはしたる木々の枝（久保田万太郎）  
あたくかさ志可はしたる木の枝

〈踊り字と末画〉

踊り字（、）は、止めないで次字へとつながりが大切。「や・枝」の末画も次字へのつながりはないが、強く止めないで軽く抜く感じ。課題手本では、墨継ぎがありませんが、墨を継ぐ場合は、下の句の「木」が一般的と思います。



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

小林 崇華 先生 書

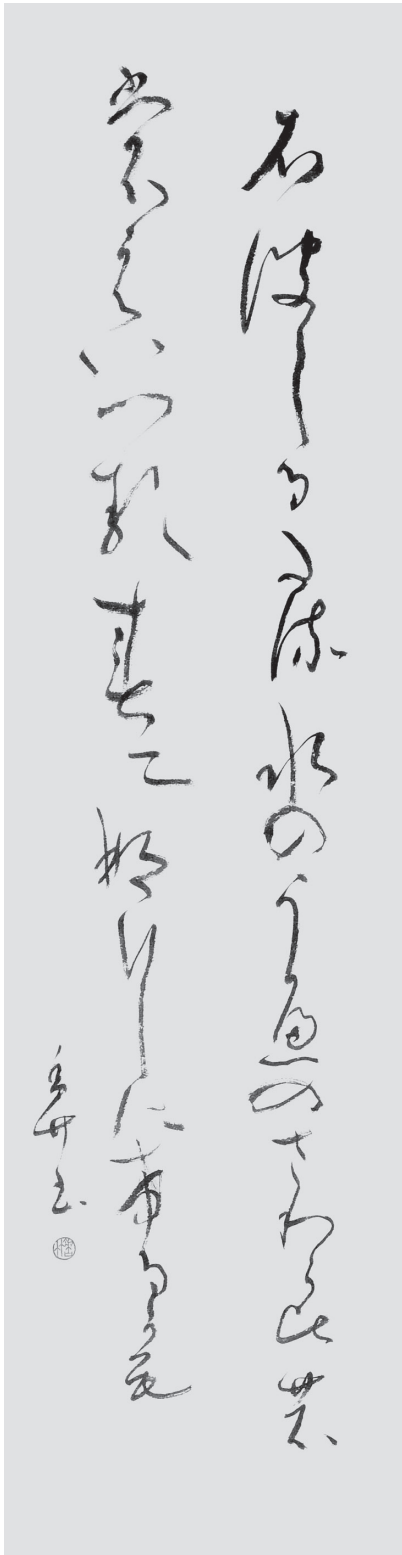
一徑梅香雲滿地 半窓花影月籠紗（葉顛）  
一徑梅香しく雲地に満ち、半窓の花影月紗を籠む。



訳：小路に満ちる梅花の香りは雲の地上に布くとも思われ、窓半分の花影月に写し出されて紗上にある。

青柳 香竹 先生 書

石波<sup>いは</sup>する垂水<sup>たるみ</sup>の上<sup>うへ</sup>のさ<sup>わらび</sup>蕨<sup>わらび</sup>の萌<sup>も</sup>えいづる春<sup>はる</sup>になりにけるかも（志貴皇子）  
石波する多流水のう遍のさわらび農裳えい川類春二那りに希る可毛

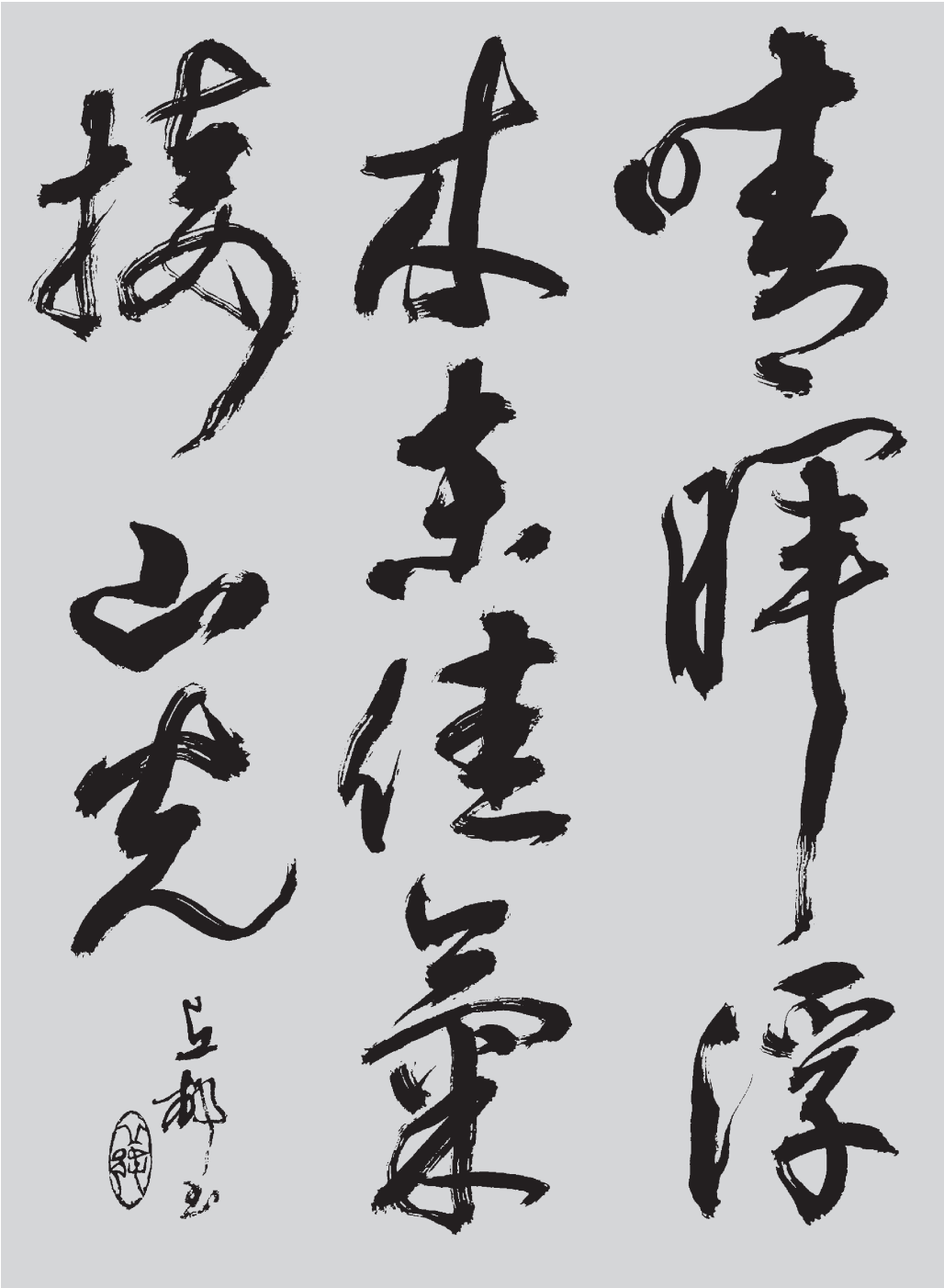


◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。



戸 張 丘 邨 先 生 書

晴暉浮木末 佳氣接山光（程啓朱）  
晴暉木末に浮び、佳氣山光に接す。

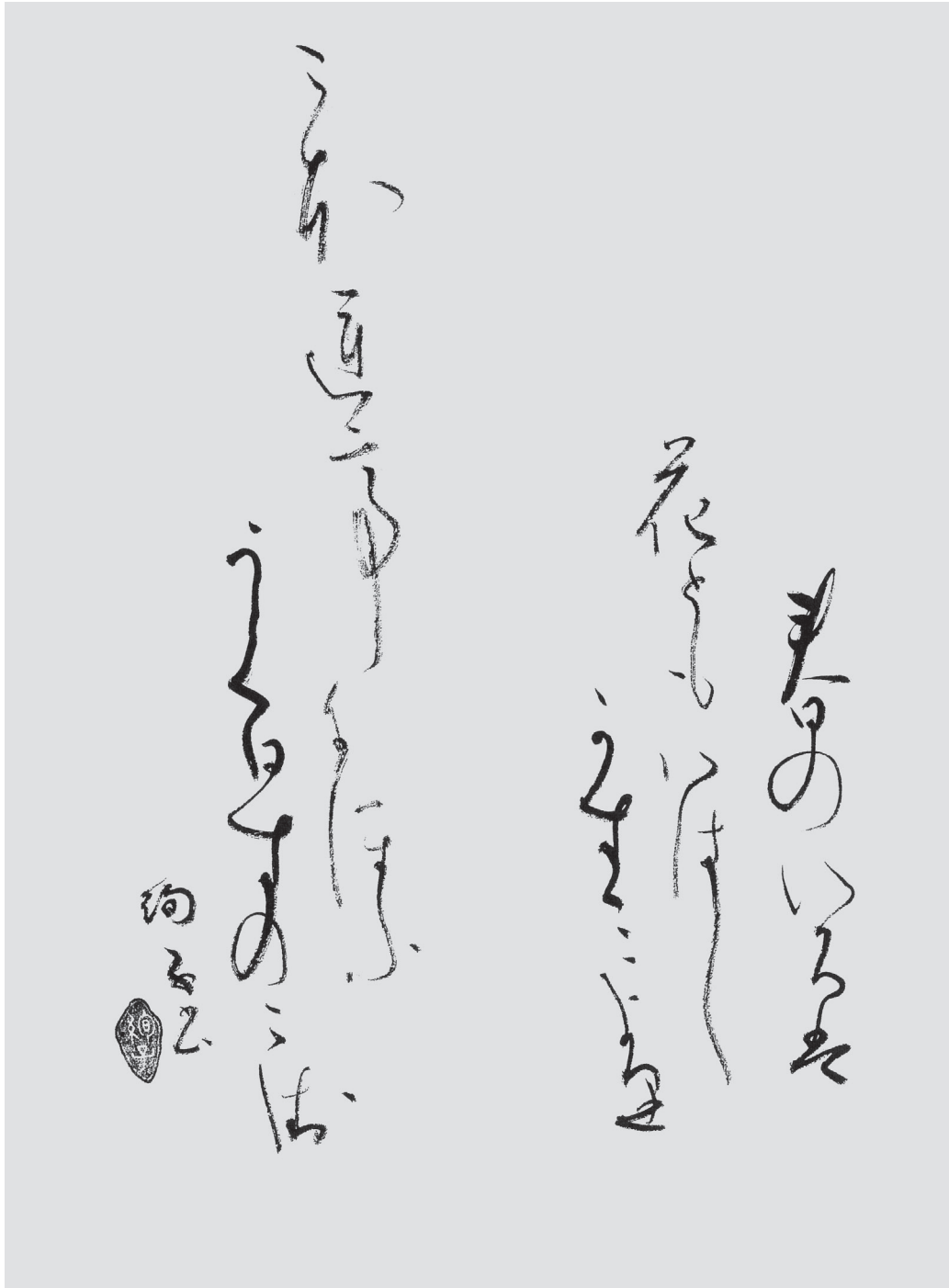


訳：晴れた日の光はこずえに浮んで見え、きもちよい空気は山の色につながって見える。

◆注 意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

宮  
絢  
子  
先  
生  
書

春のいろは花ともいはし霞よりこぼれてにほふ鶯のこゑ（藤原良経）  
春のいろは盤花ともいはし可す三よ里こ本連亭尔ほふう久日すのこ衛



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

稲畑 暉穂 先生書

石原 春香 先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

画家の感性、生命に対する彼の愛と  
 尊敬、これのみが奇蹟を生む。「主題」  
 とは「人間」ということである。

旅に出る前、私は斎藤茂吉さんに逢っ  
 た。出羽の温泉の優れた処を教へて  
 下さいと言ったところ、白布の他は肘折  
 だなあと話された。

課題 1 (初段階以上)

旅に出る前、私は斎藤茂吉さんに逢った。出羽の温泉の優れた処を教へて下さいと言ったところ、白布の他は肘折だなあと話された。  
 (『山の湯雑記』折口信夫)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段階以下)

画家の感性、生命に対する彼の愛と尊敬、これのみが奇蹟を生む。「主題」とは「人間」ということである。  
 (モーリス・ド・ヴラマンク)